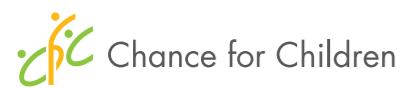


生き抜く力を、子ども・若者へ



ハタチ基金事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3

高円寺コモンズ2F 認定NPO法人カタリバ内

TEL: 03-5327-5667 (平日10:00~19:00)

<http://www.hatachikikin.com/>



東日本大震災発生時に
0歳だった赤ちゃんが、
無事にハタチを迎えるその日まで。

被災孤児、及び被災した子どもの心のケアに合わせ、
学び・自立の機会を継続的に提供する期限付きの基金です。



ハタチ基金 2013年度活動報告書
Report 2013



苦しく辛い経験をした子どもは、誰よりもつよくやさしくなれる。被災した子どもたちの成長はこの国の新たな希望です。

家族を失う。友達を失う。
こんなにも大きな試練を一人で乗り越えていくことは、とても大変です。しかし、長期にわたり「君はひとりじゃない」と励まし、子どもたちにやさしさを届け続ける存在がいたら。きっと試練を乗り越えるための原動力の一つになれるのではないかでしょうか。そしてきっと。乗り越えた試練の分だけ強さと優しさをもった大人となり、社会の中で起こる次なる試練の解決にも取り組める人となれるはずです。そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

もくじ Contents

- 01 概要／もくじ
- 02 ハタチ基金とは
- 03 子どもたちの声
- 05 活動報告
- 14 ご寄付によって届けられた支援
- 15 個人からのご支援
- 17 企業・団体からのご支援
- 18 チャリティーでのご支援
- 19 企業・団体からのメッセージ
- 20 会計報告
- 21 代表のおもい 運営団体紹介

ハタチ基金は、被災した子どもたちに、皆様の想いを届け、学び・自立の機会を継続的に提供する基金です。



【ふくしま インドアパーク】

認定特定非営利活動法人
フローレンス



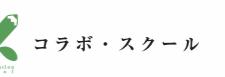
【みなみそうま
ラーニングセンター】

特定非営利活動法人
トイボックス



【Chance for Children】

学校外教育
パウチャー提供事業



【コラボ・スクール】

認定NPO法人
カタリバ



【NPOカタリバ】

未来創造事業



【ハタチ基金】



【日本 THE NIPPON
財團 FOUNDATION】

公益財團法人日本財團



2013年度は、皆様からのご寄付を、5つの支援事業の対象となる子どもたちのために大切に使用させて頂きました。

未来の復興の担い手へ 子どもたちの声

「夢の実現へ」宮城県石巻商業高校1年 千葉洸星くん



Before 3.11

● Before 3.11

「サッカーをしに学校に通っていました」

2つ上の兄の影響でサッカーを始めたのですが、小学校のときは、登校するときの服装も靴も全部がサッカー専用のものでした。小さい頃からサッカーの日本代表や海外でプレーするという夢がありました。地震については、宮城県沖の地震のことがTVで流れていて、内陸で地震は起きていたけど、まさか、自分の町が被災地になるなんて思いもしませんでした。

3.11

「雪が降っていたのを覚えています」

小学校6年のとき、卒業式練習を終え、教室に戻った時に地震が起きました。校舎は高台にありましたが、校庭からでも海が見える高さにあったので、津波の音も、家が壊れる音も聞こえました。雪が降っていたので、寒さ避けと、津波が見えないようにブルーシートをかけられました。その後、学校よりもさらに高台にある体育館で一夜を過ごしました。僕の家の3軒下で津波が止まっていて、同級生32人で家が水に浸からなかったのは、僕を含め2人だけと、複雑な気持ちでした。



青い服をきているのが千葉くん

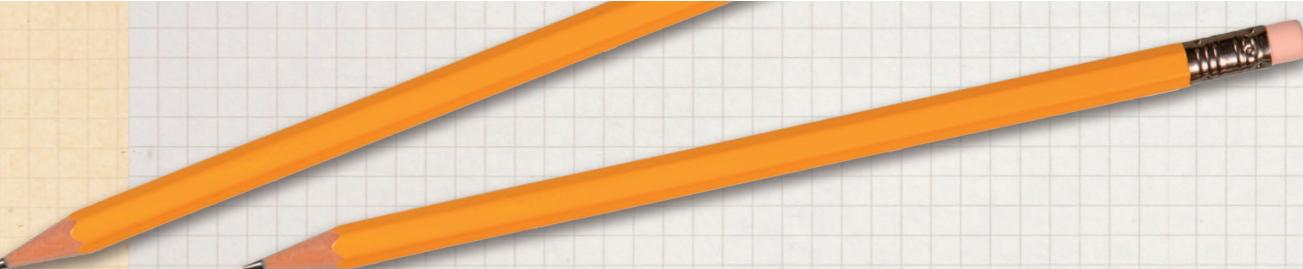
● After 3.11

「夢を叶える自分を見てほしい」

震災で中学校に入学してすぐはサッカーをできないと考えていたけど、全国からボールが届き、練習する事ができて本当に嬉しかったです。中学2年にあがる頃、サッカーと勉強の両立を考え、コラボ・スクール女川向学館に通うようになりました。その後、向学館に2年間お世話になり、先生達のおかげで高校に進学する事ができました。支援してくれた方に恩返しができるとすれば、一日一日を精一杯生きて、夢を叶え、活躍を見てもらう事だと思います。夢を叶えた自分の姿を見て欲しいです。



After 3.11



「支援の輪を広げたい」宮城県気仙沼高校2年 春日基希くん



Before 3.11

● Before 3.11

「星を見るのが好きでした」

小学校～中学校までずっと野球をしていました。父も祖父も、いつも野球中継を見ているくらい野球が好きでその影響もあったと思います。音楽を聞くことや、星を見たりするのも好きで、流星群などが通過するときは、今でも気仙沼の夜空を見ます。地震について、小学校5年～6年の頃に、TVで宮城県沖地震の予想がされていましたが、本当にくるとは思ってもいませんでした。

3.11

「海が燃えていました」

震災の翌日が中学校の卒業式だったので、黒板に卒業祝いのメッセージを書いている時に揺れを感じました。机の下に潜り、しばらくして、校内でサイレンが鳴ったので、先生の指示で校庭に出ました。同級生が泣いているのが分かりました。中学校が高台にあり、親が学校へ避難してきたのですが、街中が停電して、海が燃えていたのを覚えています。中学校の体育館での避難生活を送った後、同級生のはとこの家(内陸)や、友達のいとこ(岩手県盛岡に住む)の家などを転々としました。



3.11

● After 3.11

「自分がきっかけになって 支援の輪を広げたい」

震災後、CFCバウチャー事業のクーポンで、通信ゼミや塾をはじめました。被災して、傷ついても前向きに頑張っている人って沢山いて、全部流されちゃった漁師さんとかが、それでもやっぱりマグロを捕り続けられるのって、やっぱり心理的な影響が大きいんじゃないかなって思います。僕はみんながポジティブになれるような手助けが出来たらと思っています。今高校では軽音をやっていて、ベースを弾いているのですが、色々な人が苦労している中、支援された自分がきっかけになって、その輪を広げていきたいと思うので、自分の将来像と立ち位置を考えながら生活しています。



After 3.11

ふくしまインドアパーク

(認定特定非営利活動法人フローレンス)



放射能によって外遊びができない 福島の子どもたちのための屋内公園

課題

福島の子どもたちの肥満割合が増加。
「安心して遊べる」屋内公園が必要とされています。

放射能の問題が長期化するに伴い、運動不足や避難生活のストレスが原因で、福島の子どもの肥満割合は5~17歳のうち6つの年齢で全国最高となっています。未就学児をお持ちの親御さんは、「除染済みの公園でも放射線量が戻っているのではないだろうか」と、外遊びに対する不安を感じていると同時に、子どもが体を動かす習慣を身に付ける不安も感じています。運動能力を補ったり、ストレスを軽減するためにも、福島にはまだまだ「安心して遊べる」屋内公園が必要です。

活動

子どもたちが安心して遊べる コミュニティ創出型公園の運営

福島の子どもたちが思いっきり遊べるように、ふくしまインドアパークは2011年12月に郡山園、2012年8月に南相馬園を開設しました。パークには、パークリーダーと呼ばれる施設スタッフが常駐し、お子さんの見守りを行っています。また、イベント開催やボランティアの受入れを行い、コミュニティを創出していく公園として運営を行っています。



人と人が繋がる コミュニティ創出の場

地元郡山の英語の先生や体操の先生、おもちゃ屋さんや本屋さんがイベントを開催してくださったり、福島県外からボランティア活動のため来園してくださったりと、パークは人が集まり、そして繋がっていくコミュニティ創出の場となっています。



南相馬市が整備を進めてきた 子供の遊び場がオープン

2014年3月、地域住民の皆様の思いやフローレンスの活動が伝わり、市が運営する屋内施設がオープンしました。市の屋内公園が開園することを受けまして、「地域のお子さんに安心して遊べる場所を提供する」という震災後の私達の思いは果たされ、2014年2月末に南相馬園は運営を終了させて頂きました。

成果

地域のみなさんに愛され、 生活の一部となる屋内公園

郡山園
「1年間で福島の子ども達を1万人笑顔にする!」
を目標に活動してきました。2013年度は、約10,500人のお子さんが来場しました。

南相馬園
2012年8月の開園から2014年2月の運営終了まで、1年6ヶ月という間に約6,200人のお子さんが来場しました。運営期間中は、2ヶ月に1度地域の有識者で構成される委員会を開催し、要望をパーク運営に活かしてきました。

今後のビジョン

パークの特長を活かした施設運営

これからもお子さんが安心して、おもいっきり体を動かして遊べるパーク運営を行っていきます。ふくしまインドアパークの特長は、施設スタッフのパークリーダーがお子さんと一緒に遊んだり、親御さんとお話ししたりと積極的に様々な働きかけを行っているところです。親御さんが集い、子育ての悩みや不安を話せる場、そしてパークに集う人々のコミュニティが生み出される場となることを目指していきます。

Massa

●子どもが小さくて、除染された公園でも放射能が不安で、なかなか外で遊べないのでですが、こういう所があってすごく助かっています。ありがとうございます。(来園者様)

●初めてパークに遊びに来られた時には、お子さんも親御さんも緊張されていましたが、私達パークリーダーと挨拶を交わしたり、イベントに参加されることで、パークの楽しさを感じて頂いています。また、お子さんが初めてひとりでおもちゃで遊べたり、ひとりで靴下が履けるようになったりとお子さんの成長を親御さんと一緒に感じることが出来ます。(パークリーダー)

みなみそうまラーニングセンター

(特定非営利活動法人トイボックス)



ストレスを抱える子どもたちに 心のケアと学習支援を

課題

学習や生活に困難を抱えるお子さんにとって、安心安全な場所を増やすこと。3年経った今も、大きな課題です。

あの日から3年。みなみそうまラーニングセンターの目と鼻の先にある旧立ち入り禁止区域は、いまだ誰も住める状況にありません。震災と原発事故により大きく様変わりしてしまった環境の影響で、発達障がいを持つお子さんのみならず、健常なお子さんにも、落ち着きの無い行動がみられることもあり、年齢相応の発達が得られていないお子さんが増加しているといわれます。学習や生活に困難を抱えるお子さんが、安心して自分らしく過ごせる場を継続していくこと、安心安全に過ごせる場を拓げていくことが、今も大きな課題です。

活動

みなみそうまラーニングセンターは、発達障がいなど様々な困難を抱えるお子さんが、自分に合った方法で必要な力を伸ばすための場所です。

具体的には…●学習する習慣を身につける●苦手なことにもチャレンジできるようになる●生きていくための力をつけることを目標に、放課後・土曜日に学習支援・心理ケア・小集団でのスキルトレーニングを行っています。また、保護者や地域で子どもたちに関わる方々とも連携し、教育相談もおこなっています。



大阪宿泊学習

NPOの本部がある大阪を訪れ、普段はできない自然の中での採集、バーベキュー、スイカ割り、USJ訪問…暑い中でも屋外での活動を思いきり楽しみました。初めて家族から離れて旅をした子どもも多く、あまり他者と話さなかったのが周囲と積極的にコミュニケーションをとるようになったり、旅の良い影響がさっそくあらわれました。ひき続き今年度も実施予定です。

成果

ひとりひとりの学習能力の向上が自信と行動の落ち着きにつながっています

2013年度センター利用延べ人数…2014人
2014年4月現在、センターに定期的に通う子どもは20人。飽和状態にありましたが、教室の拡大により、受け入れ可能人数が増えることになりました。

学校の勉強についていくことが難しく、テストの点も2~30点だった子どもたちが、90点100点と高得点をとり、嬉しそうに報告してくれます。自己評価が高まり、自信につながっています。

進級進学おめでとう会

最高学年の小学6年生がまとめ役となって子どもたちで計画し、センターのかざりつけやゲームをしたり、ケーキを食べたりしてそれぞれの成長を祝いました。じっくり人の話を聞くことができるようになったり、先生が指示をしなくても自分で考え、やることをみつけて動くことができるようになったりと一人一人の成長を実感することができる機会となりました。

今後のビジョン

ご支援のおかげで二ヶ所目の教室を開所し、対象年齢をひろげることができました

お子さんとご家庭にとってこの場所が欠かせない存在になるにつれ、対象年齢をひろげて「中学生になんでも通えるようにしてほしい」という声があり、ニーズ増加の中で課題となっていました。しかし皆様からのご支援により「赤い羽根チャリティプロジェクト」の事業認定第一号に選定していただき、二ヶ所目の教室を開室し対象年齢もひろげることができます。今後は安定、継続した運営のため、いっそう内容を充実させていきます。

Massage

通う前はとても不安だったのですが、いつの間にかみんなと仲良くなれました。嫌いだった宿題は、集中してできるようになり、自分で解ける問題が増えました。宿題の後、ここで友達と思い切り遊ぶことが楽しくて仕方ありません。先生たちと楽しくおしゃべりをしたり、旅行に行ったり、公園に遊びに行ったり、学校とは違う楽しさがたくさんあります。ぼくは、大人になったら、ラーニングセンターの先生になって、勉強が苦手な子ども達を助けたいです。そして、お世話になった先生達や支えていただいている皆さんに恩返しをしたいです。

小学6年生/ひろきくん

学校外教育バウチャー提供事業

(公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン)

Activity report 活動報告



塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、 教育の機会を

課題

東日本大震災による深刻な経済被害
によって、子どもたちは“学び”的機会
を失った

震災による被害によって、多くの子どもたちが塾や習い事、体験活動等の学校外教育の機会を失いました。2013年度は、1200名(定員の12倍以上)の応募があったことから、被災地では今なお厳しい状況が続いていることがわかります。応募者の半数以上が、住家全壊や原発被害で避難を余儀なくされた子どもたちです。「多額のローンが残り、教育費を捻出できない」「進学をあきらめて就職することに決めた」等といった声もあがっています。

活動

塾や習い事で利用できる学校外教育
バウチャーの提供を通じて子どもたち
の学びの機会を保障する

東日本大震災で被災した子どもに対して塾や習い事等の学校外教育サービスで利用できる学校外教育バウチャー(クーポン券)を提供し、震災によって失った学びの機会を保障します。また、大学生ボランティアが子どもたちと定期的に電話や面談を行い、進路や学習の相談に応じたり、バウチャーの活用方法についてアドバイスします。



学校外教育バウチャーの提供を通じて子どもたちの学びを支える

2014年度は189名の子どもたちが、学校外教育バウチャーを利用してそれぞれの夢や目標に向かって活動しました。バウチャーの利用先は学習塾、ピアノ教室、スイミングスクール等、子どもの興味や関心に応じて様々です。現金給付と違い、バウチャーを支給することで、使途を教育サービスに限定できるため、確実に子どもたちに教育の機会を届けることができます。



大学生ボランティアが 子どもたちを見守る

大学生ボランティアが子どもたちと定期的な電話や面談を通して、進路や学習、バウチャーの利用方法に関する相談にのりました。子どもたちからは「本当のお兄さん・お姉さんのような存在」「毎月の電話を楽しみにしている」といった声があがっています。また、大学生は、専門家から定期的な研修を受講し、子どもと関わるうえで必要なスキルを学んでいます。

成果

地域の教育事業者や大学生と協働し、189名の被災した子どもたちを支援

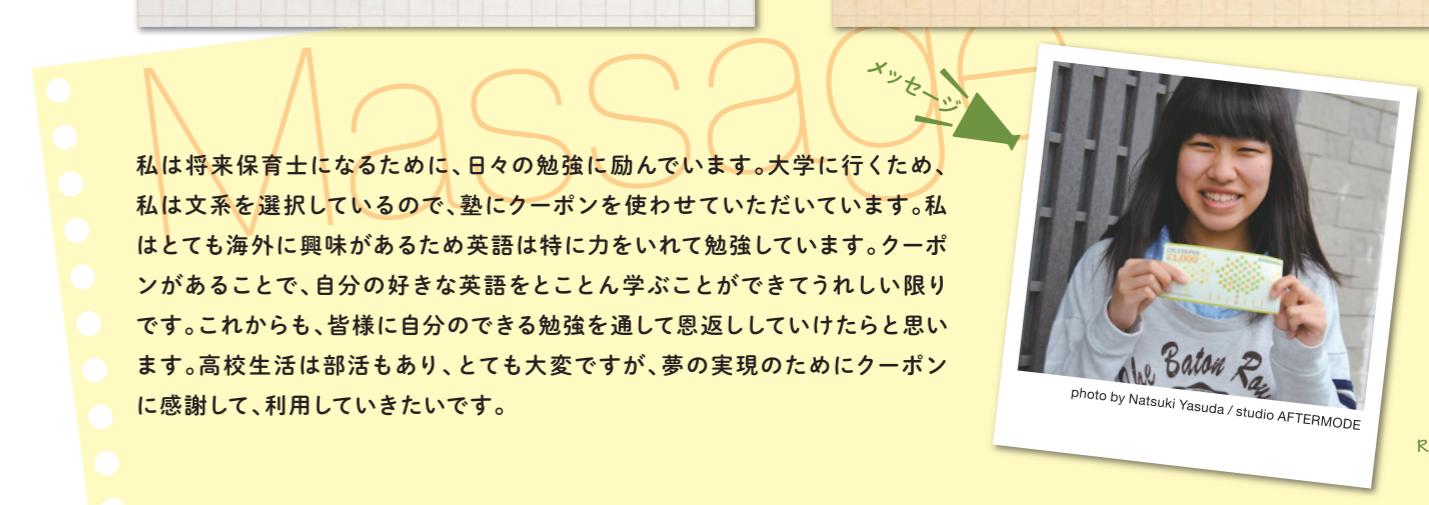
●バウチャー利用者人数189名
(内訳)・学年別: 小学生26名、中学生77名、高校生86名
地域別: 岩手県27名、宮城県139名、福島県20名、その他3名
住家被害: 全壊・原発避難170名、大規模半壊13名、半壊4名
人的被害: 父死亡・行方不明20名、母死亡・行方不明7名、その他親族死亡・行方不明18名

●バウチャー利用率82.9%
●バウチャー取扱事業者数87事業者
●大学生ボランティア人数82名

今後のビジョン

支援の成果を高めるために学生
ボランティアの育成と地域との連
携体制構築に注力します

2013年度は、皆さまのご支援により、189名の子どもたちの学びを支えることができました。次年度以降は、子どもたちの学習意欲を高めるために、大学生ボランティアの育成に力を入れます。また、特に家庭の環境が厳しい子どもたちほど、このような支援にアクセスすることが難しいという状況も明らかになってきましたので、今後は地域の方々との連携を深めるとともに、子どもたちの実態調査を行うことで、適切な支援体制を構築してまいります。



私は将来保育士になるために、日々の勉強に励んでいます。大学に行くため、私は文系を選択しているので、塾にクーポンを使わせていただいています。私はとても海外に興味があるため英語は特に力をいれて勉強しています。クーポンがあることで、自分の好きな英語をとことん学ぶことができてうれしい限りです。これからも、皆様に自分のできる勉強を通して恩返ししていけたらと思います。高校生活は部活もあり、とても大変ですが、夢の実現のためにクーポンに感謝して、利用していきたいです。



コラボ・スクール

(認定NPO法人力カタリバ)



勉強する場を奪われた子どもたちに、 学べる場を

課題

放課後の学びの場、居場所。
あたりまえの「日常」を失った。

東日本大震災において、コラボ・スクールのある宮城県女川町と岩手県大槌町は甚大な被害を受けました。住宅倒壊率は、それぞれ82.6%、64.6%と高く、多くの学習塾も津波で流されました。狭い仮設住宅での生活を続け、落ち着いて勉強に集中できない環境にある生徒がまだ多く存在します。また、生活再建への不安といった大人たちのストレスが、子どもたちの心に大きな影響を与えていたとも言われています。一人ひとりに寄り添い支える、そんな人と空間がまだ必要です。

活動

「震災で夢をあきらめた」そんな思いを子どもにさせたくない。学習環境を整え、可能性を広げる第一歩を作ります。

コラボ・スクールは、被災地の子どもたちのための放課後学校です。宮城県で「女川向学館」を、岩手県で「大槌臨学舎」を運営しています。数学・英語などの基礎学力の学習、インターネットを使った英会話などの発展的な学習の指導と心のケアを行い、東北の地から、復興を担う未来のイノベーターを輩出することを目指しています。



宿題をする場所がなく仮設住宅の前で勉強する児童(2011年6月)



生まれる学びの連鎖

女川向学館にて、向学館を卒業した高校2年生のあかりさんが先生として戻ってきた様子です。コラボ・スクールを出た生徒が、帰ってきて別の生徒に勉強を教える。そんな学びの連鎖が生まれているコラボ・スクールには多くの人が様々な立場で出来る事を考え抜く姿勢があります。



大槌臨学舎 新学舎開所式

2013年度は、従来使用していた拠点が復興計画により使用できなくなるため新学舎を建設。寄付者の方、地域の方、大槌臨学舎を応援してくださっているたくさんの方々にお越しいただき、11月2日に開所式を行いました。臨学舎の生徒も約50名が参加し、皆様へのお礼をお伝えしました。様々な職業の皆様とお話しするワークショップも開催し、生徒たちの視野を広げる機会となりました。

成果

学習面で成果を上げるとともに、子どもたちの居場所となっています。

2013年度は、小学生から高校生までの約320人をサポートしました。

大槌臨学舎へ通う中学生51名へ行ったアンケートでは、90%が「学校の勉強がわかるようになった」、73%が「勉強に対する自信がついた」と回答。中学3年生全員が第一志望校に合格するなど、学力向上に大きく貢献するとともに、生徒の自発性を高め、前向きに未来へと歩んでいく居場所の役割を果たしました。

今後のビジョン

学校・保護者・地域とのコラボレーションで、子どもたちに寄り添っていきます。

地域のニーズに応えるため、指導内容に改善を重ねながら質の高い学習指導を行っていきます。また、震災から3年が経過し、仮設住宅を退去して新しい生活をスタートする家庭がある一方、仮設住宅での生活を続けている家庭も多くあり、子どもたちの生活環境の二極化、それによる心の不安定化が見られるようになりました。これまで以上に学校・保護者・地域との連携を深め、子どもたちに寄り添った指導と心のケアをしていきたいと考えています。

Masasa

震災直後は学校にいくのが面倒臭くて、学校をさぼっていました。友達と遊んで、家でぼーっとしていたのが私の中学校生活でした。そんな中、コラボ・スクールのスタッフが「やくそく旅行」に誘ってくれました。これまでの人生で経験したことがない体験で、この「やくそく旅行」が、私が変わる転機になりました。最近1つ目標ができました。児童養護施設の子どもたちや、家庭の問題で苦しむ人を助けることです。こんなふうに思えるきっかけをコラボ・スクールはくれました。コラボ・スクールが大槌町にあることをとても感謝しています。これからも頑張るので、遠くから応援をよろしくお願いします。

メッセージ

大槌臨学舎/吉田蘭さん



東北から未来の復興を支える社会のリーダーを

課題

震災によって少子高齢化が加速する形となった被災地は、後に日本が抱える様々な問題の先進地であると言われます。例えば、コラボ・スクールのある大槌町の人口構造は、2050年時に予想されている日本の人口構造と似通っています。被災地の教育課題を解決する事は、日本の未来を作ることにも繋がる考えています。

活動

未来創造事業では、被災地の中学生・高校生に対し、キャリア学習やプロジェクト学習を行っています。2012年度に「支援されるだけを卒業して、街の復興に貢献したい」という高校生たちの声から始まった「マイ・プロジェクト」では、震災後の街の課題を解決するための高校生たちの挑戦をサポートしています。また、昨年度に引き続き「OECD東北スクール」(2014年にパリの市民に復興の姿を伝えることを目標に、東北沿岸部各地域から集まった中高生とプロジェクト学習を行う)への、生徒の参加をサポートしました。

私たちが考える “かっこいい”大人

2014年3月に行った3泊4日の「やくそく旅行」では、中学3年生23人が上京し、企業などで活躍するリーダーへのインタビューを行いました。最終日には80名近い支援者の方々へ「私たちが考える“かっこいい”大人」というテーマの発表を行いました。



ご寄付によって子どもたちに届けられた支援

2013年度、皆様からいただいたご寄付は、下記5つの事業を通して、福島県、宮城県、岩手県など東日本大震災を経験した子どもたちのために、大切に使用させていただきました。

◎認定特定非営利活動法人フローレンス



ふくしまインドアパーク郡山園
(福島県郡山市)



ふくしまインドアパーク南相馬園
(福島県南相馬市)

*ふくしまインドアパーク南相馬園は、2014年2月28日に運営を終了しました。

【支援例】

安心しておもいっきり遊べる施設の運営、子どもたちが毎日通っても飽きることのない遊具や玩具の購入やイベントの開催、子どもたちや保護者を支える施設スタッフや事務局スタッフの雇用など

◎特定非営利活動法人 トイボックス



みなみそうまラーニングセンター
(福島県南相馬市)

【支援例】

発達障がいなど課題を持つ子どもたちが安心して通える施設の運営、そのため必要な備品の購入、子どもたちや保護者と寄り添う指導員の配置など



未来創造事業



コラボ・スクール 女川向学館
(宮城県女川町)



コラボ・スクール 大槌臨学舎
(岩手県大槌町)

【支援例】

放課後の学びや居場所となる場の運営、生徒の通学のための送迎バスの運行、教材や備品の購入、スタッフの雇用、土地のかさ上げ工事のために移転した新校舎の建設など



【支援例】グループワークや発表をするための備品の購入や会場の確保、東北からの移動交通費や食事・宿泊代、運営スタッフの雇用など

◎公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



学校外教育バウチャー
提供事業(事務所:宮城県仙台市)

【支援例】

学校外教育に使用できるクーポン(寄付の80%以上)の配布、子どもたちと面談をする大学生ボランティアの研修など

*1人当たりのクーポン費(25万円)は、文部科学省が調査した小学生から高校生までの年間の学外教育費の平均額にあたり、子どもたちが1年間継続的に教育サービスを受けることができる金額です。

個人からのご支援



継続的に子どもたちをサポートする輪を広めるために、ハタチ基金では、継続寄付（サポート会員）の皆様を「呼びかけ人」と呼んでいます。一人ひとりが、身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援へと繋がります。一緒に子どもたちを支えて頂ければ幸いです。ハタチ基金Webサイトでは、ハタチ基金に寄せられた「支援者の声」を更新しています。そちらもぜひご覧ください。



チャリティーでのご支援例

通常のご寄付の他、チャリティーイベントや寄付付き商品など、さまざまな支援方法をご提案いただいております。一部になりますが紹介します。

鮎裕教室 和のイラスト&スケッチ画展 (デザインオフィスウオタニ)

イベントページでのハタチ基金の紹介と、作品展でのはがきや箸袋、香りのする香木を入れた文香などの売り上げの一部をご寄付頂いています。他に、ブログでハタチ基金メルマガについても紹介頂きました。



RICHARD MILLE リシャールミルジャパン株式会社

陸上選手のヨハン・ブレイク氏とのコラボレーションにより、チャリティーオークションの収益をご寄付頂きました。

DyDo ダイドードリンコ株式会社

2011年より、地域の活性化に向けた継続的な支援を目的とした「地域コミュニティ貢献積立金」からご寄付頂いております。

SAPPORO サッポロホールディングス 株式会社

9月に開催された「恵比寿麦酒祭」での生ビールの売り上げなどを、コラボ・スクールの運営資金としてご寄付いただきました。

伝統の技と心 手づくりの酒 一ノ蔵 株式会社 一ノ蔵

前年度に続き、「一ノ蔵 特別純米生原酒 3.11未来へつなぐバトン」の売上全額をご寄付頂きました。

ホクエイ 株式会社ホクエイ

震災後、グループとして継続的に寄付をすることを決定され、従業員のご推薦によりご寄付頂きました。

HOTTA CORPORATION 株式会社ホッタ SINCE 1879

創業時より社会貢献活動を積極的に展開されており、震災後は継続的なご寄付を頂いています。

- SAPジャパン株式会社
- 株式会社ホッタインターナショナル
- アソシエイテッド・インターナショナル株式会社
- 株式会社サンボール
- 株式会社宮本ビル

- CKD株式会社
- 日蓮宗島根県教化センター
- Hope and Love
- エンゲージメント・プロジェクト2013 参加企業一同
- ファミリーマートユニオン
- 株式会社クレイ

Salesforce.com Foundation、銀座西並木通り会、KDDI株式会社、AYNIL制作委員会、株式会社HASUNA、J-POWERグループユニアオン、松谷商事株式会社、心の絆応援プロジェクト実行委員会、合同会社こころむすび、川内倫子、株式会社フジテレビジョン、日本メドトロニック株式会社、株式会社リアル、有限会社マカアロヒ、レインボーママン・けいはんな記念公園管理事務所、Boulangerie Pâtisserie ALLARD、株式会社生活総合サービス、ONE TENTH project、ものまねキャラバン、株式会社渡辺潤平社、株式会社ソフィア、株式会社SRL、北大医学部41期会、医療法人 大慈会 三原病院、滋賀県トラック青年協議会、デザインオフィスウオタニ(和のデザイン・イラスト・はがき画鮎裕)、Taro's Noodles Pty Ltd、株式会社MSC、神奈川県電気工事工業組合、大同病院 従業員組合、尾張旭ランニングクラブ、岩国あしなが会、WAKAMUSHA、うえと salon&bar、なみの会、まんまる市、日蓮宗名古屋青年会、ウンドウギヤラリーオクト、アコードィオンアンサンブル総第26回演奏会、(株)テクノロジーネットワークス安全衛生推進協力会大阪中央支部、一布会、Run for Children Tohoku in adidas RANBASE 2014、SENDAI THE BOP、サノフィ株式会社、桜美林高等学校第63期生成人式、東北応援「渋谷の魂」プロジェクト、株式会社シエム・シイ 有志一同、株式会社スカラベジャパン、株式会社ライフコミュニケーション、寒川パソコン教室 允杜瑠大楽、三生医薬株式会社、山口なをみ音楽事務所、新東工業株式会社 リーダー会、東京土地家屋調査士会世田谷支部…

※その他にもたくさんの企業・団体様からご支援を頂きました。

ハタチ基金チャリティーコンサート2013 (実行委員会)

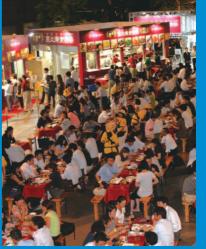
2012年から、継続的に開催されているハタチ基金チャリティコンサート。2013年度も開催頂き、収益の全額をハタチ基金にご寄付下さいました。尚、2014年も計画中。近々Facebook等で告知予定です。



恵比寿麦酒祭(エビスビールまつり)

(サッポロホールディングス株式会社)

9月に東京で開催された「恵比寿麦酒祭(エビスビールまつり)」でのエビスビール(樽生)約2万杯の売上全額と、フードメニュー「東北応援ブレード」売上金額の一部をご寄付頂きました。



クリック募金“キボウのカケラ”(KDDI株式会社)

“キボウのカケラ”支援プログラム「東日本大震災 被災地の子どもたちに明るい未来を」にて、皆様からの1クリックごとに1円を寄付頂いております。ぜひご協力ください。
KDDI社会貢献サイト「キボウのカケハシ」<http://kakehashi.kddi.com/>※「キボウのカケハシ」トップページから「キボウのカケラ」をクリック



一ノ蔵特別純米生原酒3.11未来へつなぐバトン (株式会社一ノ蔵)

被災した際に全国からご支援をいただきたご恩を「バトン」に見立て、日本の将来を背負う子どもたちへ、また次の世代へ繋いで欲しいという願いが込められた商品の売上をご寄付頂きました。



NEVER FORGET 0311 vol.3 (DRAGON HEAD)

同じ東北、秋田の地にて震災を風化させてはいけないという想いで、今年で3回目となるチャリティーライブイベントをAKITA Club SWINDLEで開催され、会場での募金をご寄付頂きました。vol.20まで開催する事を計画頂いております。



〈チャリティー商品〉

●チャリティネックレス(株式会社HASUNA)●上野の森美術館『第19回 日本の美術』ポストカード・キャンディルワークショップ(株式会社クオリアート内日本の美術選展実行委員会)●セミオーダーメイドペアアクセサリー(株式会社 時空間)●東日本大震災・チャリティ箸置1000個プロジェクト(Jun Nakano Clayworks)●「くわばたりえさんと頑張るママさんを応援♪企画「すっぽん小町」(株式会社生活総合サービス様)●『ソーシャルデザイン50の方法』(中公新書ラクレ)(今一生)●エンゲージメント・チャリティアイテム[mus.hi-mo(むすひも)](エンゲージメント・プロジェクト2013 参加企業一同)…

〈その他〉

●成人式での募金活動(桜美林高等学校第63期生成人式 実行委員会)●JustGivingでのチャレンジ支援●データベースシステムライセンス提供(セールスフォース・ドットコム ファンデーション)●サーバー提供(クララオンライン)…

会計報告 (2013年4月1日～2014年3月31日)

企業・団体のご担当者様からのメッセージ

個人の方の呼びかけをきっかけに、ご支援頂いた例も数多くございます。1人でも多くの方が、震災を他人ごとにしないで、自分ができることを考え動くようなきっかけを、皆様も一緒につくって頂ければ幸いです。



株式会社HASUNA
児玉 香織

2011年3月よりチャリティアイテムの販売を通してご支援頂いています。本年度は、復興を目指してつながった、たくさんの人の縁(ネットワーク)が子供たちの未来への懸け橋となることを願ってデザインされたチャリティネックレス1点につき3,000円をご寄付頂いています。



リシャールミル
ジャパン
株式会社

例え騒がれなくなりても、支援を必要としている人がいることを忘れてはならない、という思いを共有し、現地の方を巻き込んで盛り上げる「熱」を感じさせていただきました。夢や目標をひとつずつ、実現できることを信じて願っております。



アコーディオン
アンサンブル総
深谷 正義

つらいこと、悲しいことがいっぱいあります。嬉しいことや楽しいこともあります。生きている命を、友だちやまわりの人たちといっしょに輝かせてください。オリンピック選手のようなすごいことなく、自分なりの金メダルを目指して、一歩一歩進んでください。これからも応援させてもらいます。

演奏会の来場者へ募金を呼びかけてご寄付頂き、チラシや掲示資料でハタチ基金の趣旨や活動内容をご来場者に伝え、ご支援を呼びかけて頂きました。



株式会社
生活総合サービス
川本 紗矢香

福島を訪れたときの、皆様の優しさ・温かさを今も忘れません。微力ではございますが、少しでもお力になりたいです。一人でも多くの方が一日でも早く笑顔になれるよう、お祈り申し上げております。

インターネット企画で商品を1回ご購入、またはお友達をご紹介いただく毎に300円をご寄付頂きました。

○個人で継続的に寄付をする

毎月、継続的に寄付をするサポート会員(呼びかけ人)として月々1,000円からクレジットカードでご寄付。

○個人で都度寄付をする

ご都合のよろしい時にご希望の金額を、クレジットカードまたは銀行振込にてご寄付。

○団体で支援をする

支援企業・団体を随時募集しています。今まで商品の売上やチャリティーイベントでの収益など、継続的なご支援方法を多数ご提案いただいております。

*銀行振込のお申込みでは、支援活動を指定しての寄付も受け付けております。ご指定先を事務局までご連絡ください。

お問い合わせ:ハタチ基金事務局(認定NPO法人カタリバ内)
TEL:03-5327-5667 ※平日10:00～19:00 MAIL:info@hatachikikin.com
<http://www.hatachikikin.com/>

たくさんのご支援お待ちしています

○支援の方法

●クレジットカードからのご寄付はWebサイトからお申し込みください。「ハタチ基金」で検索
<http://www.hatachikikin.com/shien.html>

●銀行振込でのご寄付は下記口座に

お振り込みください。

お振り込み口座 ※ハタチ基金専用口座です。

銀行名 : 三菱東京UFJ銀行 本店

口座番号:普通 7637273

口座名義:公益財団法人 日本財団

* 公益財団法人の税制優遇が受けられます。
※領収書が必要な方は、Webサイトの銀行振込お申込みフォームまたは事務局へお問い合わせください。

〈ハタチ基金の収支〉

(単位:千円)

科 目	内 訳	金 額
繰越金	2012年度繰越金	101,195
寄付収入		186,638
配分金額	認定特定非営利活動法人フローレンス	17,902
	特定非営利活動法人トイボックス	24,483
	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	42,032
	認定特定非営利活動法人カタリバ	69,750
	合計	154,168
残高	繰越金+寄付収入-配分金額	133,664

*残高は、来年度への繰越となります。

認定特定非営利活動法人カタリバ

●コラボ・スクール女川向学館 【総事業費】89,797千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(スタッフの雇用など)	9,673
移動・活動費(生徒送迎バス、交通費、宿泊費など)	7,848
備品・消耗品費(学習設備、事務用品など)	2,092
教材費(授業で使用する教材など)	705
その他運営費(保険、広報、光熱費など)	9,690
来年度繰越金	1,950
合計	31,961

〈各団体の支出〉

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。

認定特定非営利活動法人フローレンス

●ふくしまインドアパーク 【総事業費】44,803千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(現地パークリーダー、運営スタッフなど)	11,655
運営費(工事費用、施設賃貸料、遊具の購入・水光熱費など)	6,247
合計	17,902

●コラボ・スクール大槌臨学舎 【総事業費】117,240千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(スタッフの雇用など)	3,182
移動・活動費(生徒送迎バス、交通費、宿泊費など)	1,881
備品・消耗品費(学習設備、事務用品など)	2,214
教材費(授業で使用する教材など)	198
その他運営費(保険、広報、光熱費など)	10,765
固定資産取得費(施設建設費)	10,175
合計	28,416

特定非営利活動法人トイボックス

●みなみそうまラーニングセンター 【総事業費】33,708千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
相談員など人件費	13,661
旅費交通費・車両費	4,631
支援施設運営管理費(家賃・水光熱費・修繕費)	2,415
事業運営費(通信運搬費・委託費・教材費・消耗品費など)	2,143
広報報告費(印刷費・Web関連費)	878
その他(雑費、保険料、租税公課など)	753
合計	24,483

●未来創造事業 【総事業費】2,159千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
旅費交通費(生徒移動交通費、宿泊費など)	417
会場費(会場・食事など)	59
その他運営費(ワークショップ備品、事務用品など)	22
合計	500

●ハタチ基金事務局 【総事業費】9,658千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(寄付者対応、事務局運営など)	6,707
旅費交通費(スタッフ交通費など)	54
広報費(報告書、Webサイト作成・管理など)	1,267
その他運営費(光熱費、事務用品費など)	841
合計	8,872

*千円未満の端数は切り捨て掲載しているため、内訳を足した金額と合計金額が異なることがあります。

代表のおもい 運営団体紹介



代表理事 今村久美

認定NPO法人力カタリバ

刻々と変わる環境の中、変わらず支え続ける。

復興住宅に引っ越した人、未だ仮設住宅に住み続ける人、元々津波の影響がなかった人…。「みんなで一緒に頑張ろう」の段階から各々の立場が変わりはじめています。時間の経過が引き起こす課題を細やかに捉えながら、子どもたちの意欲を伸ばすことと、隠しがちな弱さを支えるということの両面に、しっかり取り組んでいく姿勢が、今、求められています。

NPOカタリバが取り組む社会課題は、未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうことです。すべての子ども・若者が、自ら思い描いた未来を切り開いていくために、私たちが育てるのは「生き抜く力」です。首都圏をはじめ全国では、高校生の心に、「火を灯す」「カタリ場」を、東北では、子どもたちのための放課後学校「コラボ・スクール」を展開しています。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ 2F
【お問い合わせ】TEL 03-5327-5667 <http://www.katariba.or.jp/>



公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



Chance for Children

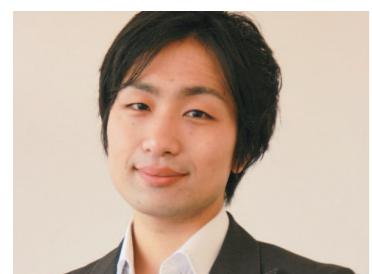
子どもを支えることは地域の未来を創ること。

街の復旧は目に見えるけど、その街を支える人の復興はなかなか目には見えない。だからこそ人を育てることは、なによりも大切だと思います。今から20年前、私たちの活動は阪神・淡路大震災を契機に始まりました。あの震災の年に生まれた子どもたちがおそらく、この神戸の街をこれからもずっと支えていく。そんな明るい未来を今の東北にも感じています。

理事・スーパーバイザー 能島裕介

Chance for Childrenは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきた特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分に学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。』をスローガンに、学校外教育機会が保障され、すべての子どもにチャンスが与えられる社会を目指しています。

〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1-3-12 カミヤビル3階
【お問い合わせ】TEL 022-265-3461 <http://www.cfc.or.jp/>



認定特定非営利活動法人フローレンス



全国共通の課題に、最も深刻に取り組むべき時。

震災から3年。メディアから被災地の話題は大きく減りましたが、課題はそこにあり続けます。ハード的復旧が終り、人口減少下において、如何に強い経済を生んでいくか。そんな全国共通の課題に、最も深刻に取り組まねばならなくなっています。我々の支援の形も、変化しなくてはなりません。ぜひこれからも一緒に闘って頂けると嬉しいです。

「子育てと仕事そして自己実現のすべてに誰もが挑戦できるしなやかで躍動的な社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む最も象徴的な「病児保育問題」解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の仕組みを構築し、現在首都圏を中心に展開、順次拡大を予定しています。また、08年より収入の少ない働くひとり親世帯の子育てを支援すべく寄付会員制度を導入し、安価な病児保育サポートを開始しています。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-3-7 秋穂セントラルビル2F
【お問い合わせ】TEL 03-5275-1161(9:00~18:00) <http://www.florence.or.jp/>



生き抜く力を、子ども・若者へ
NPOカタリバ



代表理事 白井智子

特定非営利活動法人トイボックス

TOYBOX
Nonprofit Organization

子どもたちが安心安全に成長できる場所と機会を提供し続けて行けるように。もっと力強く、安定して子どもたちを支えられるように。

皆様の厚いご支援のお陰で、みなみそうまラーニングセンターも開設から二年、子どもたちが安心して自分自身で居られる場所を得ることが、こんなにも大きな成長をもたらすのかと、感動と感謝でいっぱいです。一方で、震災直後にはまだみられなかった子ども達の発達の課題や、社会的な課題が重くのしかかっていることもまた、事実です。引き続き温かいご支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。



さまざまな分野の専門家が集まり、教育・エンターテイメントからまちづくりやソーシャルクリエーションまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府 池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。

〒563-0029 大阪府池田市五月丘5-3-18 【お問い合わせ】TEL 072-751-1145 <http://www.npotoybox.jp>



会長 笹川陽平

公益財団法人 日本財団

日本 THE NIPPON FOUNDATION

未来を見据え、次代を担う子どもたちを支え続ける仕組みへ。

ハタチ基金立ち上げから3年が経ちました。世間の関心が東北から離れていく中、なおご支援いただいている企業や個人の皆さまの数は衰える様子がありません。特に、毎月継続的に応援いただいている方が約1,000人ものコミュニティを成していることに、大変心強い思いです。子どもたちの成長に寄り添い、地域が抱える課題にも共に挑み続ける。この基金を、皆さんと東北とを結ぶ要として、引き続き育てていただけますよう、心よりお願い申し上げます。

民間の立場から、社会に存在するさまざまな課題を解決するために、国内外で支援を実施しています。海や船に関わる活動、教育や文化・福祉に関わる活動への助成実績は、5万件以上にのぼります。東日本大震災では、ご遺族に対する弔慰金・見舞金の配布、NPO等への100万円の緊急支援など、迅速な支援を行いました。現在も国内外より寄せられるご寄付によって、被災地のニーズに即した復興支援を展開しています。

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル 【お問い合わせ】TEL 03-6229-5111 <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

「ハタチ基金3周年記念復興フォーラム」 開催のご報告

Event



2014年6月7日(土)、東京・日本財団ビルにて「ハタチ基金3周年記念復興フォーラム」を開催いたしました。80名近くの参加者に対し、活動報告を行うとともに、支援者がこれまでの支援に対する想いや支援方法について共有しあう時間を設けました。

活動報告では各運営団体による発表だけではなく、支援を受けた生徒自身が感謝の意と自らの成長について参加者の前で発表を行いました。また後半では、活動を支えて下さった支援者の皆様がどのような想いでどのような支援活動を行ってきたのかを共有しあうオープンマイクセッションを行い、これからの復興支援について、参加者それぞれが思案する時間となりました。



オープマイクセッションの様子